

## アレキサンダー・モギレフスキー氏のご令孫マルク・モギレフスキー氏がご来校！



本学創立1926（大正15）年の翌年、1927（昭和2）年に教授に就任したアレキサンダー・モギレフスキー氏のご令孫マルク・モギレフスキー Marc Moguilewsky 氏が、2026年5月11日（月）に来校されました。

本学が100周年を迎えた年に来校されたことに、本学との深い縁を感じざるをえません。今回のご来校は、ご祖父様の回想録を執筆するための調査で、本学が所蔵・保管している資料の閲覧が目的でした。本学が100周年を迎えることをお伝えすると、大変驚き、また「祖父とのつながりを感じる」とおっしゃっていました。

アレキサンダー・モギレフスキー氏は、1927（昭和2）年5月～12月、1937（昭和12）年～1944（昭和19）年、1948（昭和23）年～亡くなる1949（昭和24）年の期間、本学で教授を務められました。1982（昭和57）年12月7日発行の『広報くにたち』

には、当時理事長だった中館耕造が、モギレフスキー氏の就任までのいきさつについて以下のように語っています。

**アレキサンダー・モギレフスキーは欧州楽界の巨星といわれたヴァイオリニストで、日本に大正15年に来たのです。**

日本のヴァイオリンをやっている音楽家達が「今まで、クライスラーとかジンパリストという偉いヴァイオリニストの演奏を神様のような演奏として聴いていたけれど、何とかして直接手をとって、短期間でも指導してほしい。それについては、あなたなら話しがわかると思うから何とかしてくれ。」と言ってきたので私も若かったから、校長を連れて交渉に行ったのです。そうしましたら、案外話しが早くまとまり、では来年からやろうということで雇ったわけです。

アレキサンダー・モギレフスキーは、本学に多くの教育的成果をもたらし、その後の発展に大きく寄与しました。そのご令孫のマルク・モギレフスキー氏は、校史資料（IR推進室）および附属図書館が所有する多くの資料を前に、目を輝かせ、「日本にこんなに資料があるなんて！」と驚きと喜びを口にされました。資料は、実に7箱にも及びます。

資料をゆっくりと大切に確認した後、学食で昼食を召し上げられ、ご同行された常葉大学短期大学名誉教授の小林秀子様とともに、優しく手を振ってお帰りになりました。本学からは、ささやかなお土産として『国立音楽大学100年のあゆみ〜くにたちおん新世紀〜』をお渡ししました。その7頁には、ご祖父様のことが写真とともに掲載されています。

